

矢田さんの実家の前には線路が通っていました。小さいころ列車を見ては、子ども心に「この先にあるどこかに行きたい」と旅心を抱いたそうです。その心に誘われるように国鉄に入社したのは、民営化してJRになる2年前。経営状況が厳しい時期でも、「だからこそ、これから面白くなる」と捉えていました。

入社して30年超となる現在まで、最も長く働いたのは営業や販売促進などの部署。通勤・通学や買い物などで地元の人に列車を利用してもらうのは鉄道事業の基本。しかし全国に先駆け、少子高齢化が進む四国ではその需要だけでは先細りが明らかで、四国外から人を誘致する「観光」での利用が増が不可欠でした。そのため、

地元の自治体などと連携して観光素材をより魅力化し、大都市圏を中心に情報発信することが必要でした。

心に残るのは、JR西日本岡山支社と共催した瀬戸大橋線開業15周年の記念行事。窓にガラスの入っていないトロッコ列車を海上で走らせ、香川・岡山両県知事が出席されて記念式典を行いました。両県に伝わる桃太郎伝説にちなんだクイズラリーを行い、ミニSLを走らせるイベントなども企画運営しながら、「鉄道は移動の手段だけでなく、その地域を楽しむための目的にもなる」という意識が高まりました」と矢田さん。その後も地域と鉄道が一体となり賑わいをもたらす事業に、社内のメンバーと共に携わりました。JR四国では、



15周年のイベントに合わせて制作したパンフレット。



香川大学の人の繋がりには非常に多く助けられたという。

# 鉄道は、地域とともに発展します

「民営化2年前入社」「今から面白い」

鉄道は、楽しみの目的にもなり得る

「四国を元気に」の気持ちが一番重要

で学生が少なかつたこともあり、大学時代は友人にも先生にもとても親しくしていただき、充実していました。社会人になってからは、様々な事業で香川大学の先輩後輩に助けていただいています。四国の駅弁選手権というイベントを担当した時も、先輩にご協力をお願いしたら快く引き受けてくださいました。

社内でも剣道部、ヨット部、野球部の部長を務め、勤務時間外でも社員同士のコミュニケーションを大切にしている矢田さん。「仕事は周りの人に助けられながら進みます。人と人の繋がりは宝物です」という言葉には、地域や仲間を愛する心が溢れています。

四国旅客鉄道株式会社  
常務取締役 総務部長

## 矢田 栄一

Eiichi Yata

やた えいいち

- 昭和60年 香川大学法学部卒業
- 昭和60年 日本国有鉄道入社
- 昭和62年 四国旅客鉄道株式会社 営業部販売課
- 平成22年 四国旅客鉄道株式会社 事業開発部長
- 平成24年 四国旅客鉄道株式会社 鉄道事業本部営業部長
- 平成25年 四国旅客鉄道株式会社 取締役鉄道事業本部営業部長
- 平成27年 四国旅客鉄道株式会社 取締役財務部長
- 平成28年 四国旅客鉄道株式会社 常務取締役総務部長

四国旅客鉄道株式会社 香川県高松市浜ノ町8-33